

音 楽

音楽科においては、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、思いや意図をもつことができるようにすることが課題です。そのため、児童の学習状況を具体的にイメージした評価規準を設定すること、〔共通事項〕との関連を十分に図った題材を構成すること、ICTを効果的に活用し、音楽表現を工夫したり、音楽を聴き深めたりすることにつなげることが大切です。

I 目標の明確化や評価の充実のポイント

育成を目指す資質・能力を明確にするためには、題材で育成する資質・能力を身に付けた児童の学習状況を具体的にイメージし、観点別に評価規準を設定することが大切です。

例えば、「思考・判断・表現」の評価を行う際には、「なんだか追いかけているような感じがしたのは、だんだん強くなるのと同時にだんだん速くなっているから」と感じ取ったことと理由を、音楽を形づくっている要素の働きに求めたり、音楽を形づくっている要素の働きがどのようなよさや面白さ、美しさを生み出しているのかについて考えたりしているかを見取ることが重要です。

II 指導計画の改善のポイント

児童が聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えることができるよう、〔共通事項〕との関連を十分に図った題材を構成する必要があります。取り扱う教材や内容との関連から必要と考えられる〔共通事項〕を繰り返し指導することができるよう、思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を厳選し、指導計画に適切に位置付けることが大切です。その際、「思考力・判断力・表現力等」、「知識」、「技能」に関する内容を相互に関連付けたり組み合わせたりしながら、児童が、どのように音楽で表現するかについて思いや意図をもち、生活や社会の中の音や音楽の働きの視点から、学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができる場面を設定することが大切です。

III 手立ての充実のポイント

ICTを活用することで、聴覚だけでなく視覚などを働かせながら、音楽表現を工夫したり、音楽を聴き深めたりすることができます。その際、様々な感覚を働かせ、音楽科の学習の特質に合わせたICTの活用を図ることが重要です。例えば、1人1台端末を活用することにより、ワークシートとともに実際の演奏などを記録に残し、音や動画を取り込んだ学習のポートフォリオとし活用することが考えられます。さらに、気になったところを何度でも繰り返し聴くことで、音楽のよさをより深く感じ取ることができます。

聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、思いや意図をもつ力を育む計画

<題材名>

「和音に合わせて旋律をつくろう」(第6学年)「A 表現・音楽づくり」

<題材の目標>

- (1) 和音の響きとその移り変わりや、和音と旋律との関わりについて、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付ける。〔知識及び技能〕
- (2) 音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、旋律を工夫し、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。〔思考力、判断力、表現力等〕
- (3) 和音と旋律との関わりや、繰り返す和音進行をもとに旋律をつくることに興味・関心をもち、主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組み、音楽の縦と横との関係に親しむ。〔学びに向かう力、人間性等〕

【II〔共通事項〕の焦点化】

- ・音楽を形づくっている要素を厳選し、位置付けている。

〔指導事項との関連〕 A 表現 (3) 音楽づくり ア(ア)(イ) イ(イ) ウ(イ) 〔共通事項〕 (1) ア

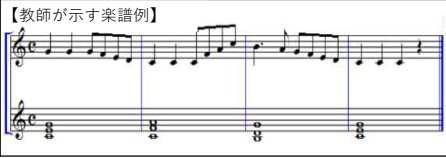
(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音楽の縦と横との関係」)

※本題材で扱う「音楽の縦と横との関係」とは、I (C) - IV (F) - V (G) - I (C) の「和音の響き」とその移り変わり(和音進行)と、「旋律」との関係を目指す。

< 題材の評価規準 >

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①和音と旋律との関わりについて、それらの生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解している。 ②音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けて鍵盤ハーモニカや鉄琴等で旋律をつくっている。	①音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えている。 ②音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	①和音と旋律との関わりを生かして音楽をつくる活動に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。

< 題材の指導計画 (4時間) >

時数	学習活動 [聴き取ったこと(*)・感じ取ったこと(※)・思いや意図(☆)]	評価の観点				
		知識	思	態		
1	○五線黒板で単音ドと1の和音(ドミソ)を示したりピアノで実際に和音を鳴らしたりするなど、違いを比べる。 ○「春がきた」「まきばの朝」など既習曲を参考に鍵盤ハーモニカや鉄琴等で、ハ長調のC-F-Gの和音を鳴らすなど、和音の移り変わりをを感じる。 【児童の発言例】 ・和音の響きが明るく移り変わる(*)ので、次に続く感じがする(※)。 ・最初と最後の和音の響きが同じ(*)なので、終わった感じがする(※)。	① 発言・記述	① (知) 発言・記述	① 行動観察・記述		
2	○和音と旋律との関わりについて、楽譜を参考に確かめる。 ○旋律の各小節のはじめの音は和音の構成音できていることや構成音以外は、和音の音から隣の音に進んだり、和音の音と音をつないだりしていることなどを確認する。 ○設定された条件に基づいて、即興的に旋律をつくって表現し合う。 ○どのようなことを考えてつくったのかを振り返ったり、友だちと伝え合ったりする。 【教師が示す楽譜例】 					
3 4	○音楽をつくるための条件を確認する。 ○C-F-G-Cの和音の移り変わりに合わせて、試行錯誤しながら鍵盤ハーモニカや鉄琴等で旋律をつくる。 ○全体のまとまりを意識した音楽にするために、旋律がある程度でき上がったなら、友だちと聴き合ったり、教師に聴かせたり、タブレット等に録音して繰り返し聴いたりするなど表現に生かすようにする。 【児童の発言例】 ・旋律が最後に向かって低いドから高いドまで移っていた(*)ので、曲の終わり方が強調されて、華やかな感じがした(※)。 ・和音の音を中心に旋律をつくっていたけど、もう少しカッコよくなりたいから、隣の音や続く感じの音を入れてみようかな(☆)。 ○つくった旋律を見直したり、新たにつくったりする。 ○全員の旋律を聴き合う。 ○音楽づくりで学習したことについて記述したり、発表したりする。 【児童の記述例】 ・和音の音以外にもたくさんの音を使っていて、面白い曲だった。 ・C-F-G以外にも和音はあるのかな。 ・自分の好きなJ-POPの曲の旋律と和音の関係を調べてみたい。 ○学習を通して学んだこと(音楽の縦と横との関係など)について、日常にある音楽と関わらせて振り返る。				② 発言・記述	② (技) 演奏・聴取

< 参考資料 >

・音楽、図画工作、美術、工芸、書道の指導におけるICTの活用について (文部科学省)



・StuDX Style GIGAスクール構想のもとでの小学校音楽の指導について (文部科学省)

